

国道1号バイパスの早期実現に向けた要望

一般社団法人山科経済同友会は、山紫水明、緑豊かな山科・醍醐地域において、経済文化の振興発展と地域社会の繁栄を目的とし昭和44年に地区唯一の経済団体として発足いたしました。令和元年10月3日には設立50年を迎え、約140社の会員企業が住みよい街、活気あふれる山科・醍醐地域の実現を目指し、会員相互の研鑽に努め各種事業を展開しております。

国道1号の京都市から滋賀県大津市の区間は、古くから東海道「逢坂の関」として往来をされてきました。現在では東西を結ぶ交通の要衝となっておりますが、片側1車線のため正常な日常生活や経済活動に支障が発生しております。

ここ数十年で、頻発化、激甚化する集中豪雨などの災害により、国道1号は幾度となく通行止めとなり、その脆弱性が課題となっております。

また、山科区内の外環状線や国道1号、三条通の渋滞は、新十条通（稻荷山トンネル）の無料化により交通量が増加し、特に朝夕の通勤時間帯には慢性的な渋滞が発生しております。

さらに、この区間の近隣には断層があり、その断層による震災が起これば並走する名神高速道路と国道1号線が同時に寸断されることになれば、東西の大動脈が寸断され日本の経済にも大きな痛手となります。

こうした課題を解決するため、国道1号バイパスの早期実現を目指し、「新しい国道1号バイパス建設促進議員連盟」、関係自治体を主体とする「滋賀・京都間の新しい国道1号バイパス建設促進期成同盟会」がそれぞれ設立され、毎年、国への要望活動が行われております。

国道1号バイパスは、京都府・京都市、そして山科・醍醐地域の経済文化の発展と地域社会の繁栄はもとより、日本の経済と国民生活の安全保障に不可欠な道路であるため、確実な交通が確保できるよう、国道1号バイパスの早期実現を強く要望いたします。

以上